

## 「お誕生会」ってすてきな！

こども園にお世話になって1か月近くたちましたが、毎日感動の連続です。

心が洗われるような園児の純粹さもそうですし、園の先生方の、一人一人を見守り、認め励ましながら育てている姿にも感動させられています。そして一つ一つの行事への愛情あふれる真摯な取組にも同様です。

先日は、お誕生会がありました。今回は4月生まれの子どもたちです。

まず、「なまえっていいな」などの歌を歌い、4月生まれのお友達に保護者の方のインタビューなどを行います。保護者の方から名前に込められた思いなどをうかがったり、4月生まれのお友達への質問コーナーもあつたりします。ここまでお誕生日の人を大切にする行事は、小学校にはありません。園ならではのものです。



見ながら、このお誕生会には3つの大切な役割があるのでと思います。

一つは、家族や園の友達、先生、たくさんの方が自分のことを大切にしてくれていることを実感すること。「私のことを大切に思ってくれる人がこんなにいる」ことに気付くことです。きっと自尊感情の高まりにつながるはずです。

二つ目は、人のために役に立つことが楽しいことに気付くことです。お誕生日の人のために歌ったりお祝いしたり質問したりすることで、喜んでくれる人がいる。そのことが自分にとっても楽しいと感じることでしょう。

三つ目は、自分がわき役になることがあることに気付くことです。自分を祝ってもらえる確率は1/12、いつも自分が中心にはなれません。というより脇役の時間の方がずっと長いものです。人生もそうかもしれません。自分を客観視する素地（メタ認知の力）を身に付けることができるのがこの誕生会なのかもしれません。

誕生会の後は、園児はお手製のこいのぼりづくりなどで楽しみ、保護者の方々はおしゃべり会を通して懇親を深めていただきました。



## 始まりの一か月

新学期が始まって1か月たとうとしていますが、朝は泣く園児がたくさんいらっしゃいます。保護者の方と別れる、または別れた不安や寂しさからくるのでしょう。保護者の方にしてみれば、預けられるときのわが子の泣き声に後ろ髪をひかれたり断腸の思いを感じられたりする方もおられるのではないのでしょうか。それも翌日、その翌日と続くお家の方もきっと不安になられることでしょう。ですが、その不安が園児に伝わると、それを敏感に感じ、より不安が強くなるかもしれません。

「大丈夫。大丈夫。」「いつか慣れるさ。」くらいの気持ちで接していただけるといいのではと思います。車の中やバスを待ちながら「今日の夜は、ハンバーグ食べようね。」「帰ったら、園のお話聞かせてね。」と、帰った後の楽しみを伝えたり、「お母さんは仕事、Oちゃんは園での遊び、一緒に頑張ろうね。」と励ましたりしていただければ、気持ちも少しは前向きになれるかもしれません。

そして、園で頑張っている園児をお家で、たくさん抱きしめてあげてください。たくさん甘えさせ、たくさん受け止めていただければと思います。

保護者の方と別れた後、しばらくして私も気になり見に行ってみると、泣いていた園児が先生と一緒に砂遊びをしたり園庭の小さな花や虫、石、室内の物等に興味を示したりして、次第に保護者の方の存在を忘れていく様子を目にします。

園では温かく迎え、保護者の方と支え合いながら、少しずつかもしれませんが成長の喜びを分かち合えればと思います。

また連休もやってきますが、連休後もまた一緒にがんばっていきましょう。

私が三十年ほど前に、小学一年生を担当していた時、隣のクラスで入学式からしばらくの間、それはそれは大きな声で泣いていた児童がいました。高学年で担任した私にも年賀状をそのご家族からいただきます。当時泣いていた一年生が立派な父親になり、一年生のお子さんと写った年賀状が送られてきた時は、当時を思い出して、懐かしく、思わず微笑んでしまいました。

